

WHO 中国フェローシッププログラム「日本の保健医療政策—保健システムの強化及びプロジェクト管理」（2015年10月19日～10月23日：うち国立保健医療科学院10月20日午前・午後）

参加者：3名
国際協力事業部 部長、
国家衛生計画生育委員会国際機構課 課長、
国立女性と子ども健康センタープログラムオフィサー



【集合写真 本院：玄関ロビー】

1. 研修の概要

WHO 西太平洋事務局長の依頼により、中華人民共和国から3名のWHOフェローが来日し、「日本の保健医療政策—保健システムの強化及びプロジェクト管理」について研修を行った。

研修の目的：

- 保健医療政策の展開と遂行に関する知識及びその方策を獲得する
- 日本における保健システム強化モデル、またその戦略及びアプローチについて学習する
- 日本におけるプロジェクト管理（保健医療分野）の方法とプロセスについて学習する

研修受け入れ先は、当院の他、長野県庁（県の保健政策ビジョンと保健医療計画）、佐久保健福祉事務所（視察）、佐久総合病院（病院の管理、運営、実績評価システム）、厚生労働省（医政局および健康局）（日本の医療提供体制、健康日本21）である。

2. 当院における研修の概要

研修全体の第一日目に来院され、曾根が「日本の公衆衛生制度と保健医療人材育成」、種田が「ヘルスケアシステムの戦略マネジメント」に関する講義・演習を行った。

参加者は、特に日本の健康保険制度、公衆衛生活動や高齢化に関わる保健医療政策に関心が高く、活発な議論を行うことができた。また戦略マネジメントに関しては、参加者のプロジェクト等についても話を伺いながら、中国におけるコンテキストにも配慮しつつ、参加型でインタラクティブに学ぶ研修スタイルで実施した。初めての体験だったようで、戦略およびチーム・マネジメントについて楽しく学びを深め、自国でも取り入れたいという感想をいただいた。



参加型演習風景①

（演習を通じて戦略的チーム・マネジメントに必要なスキルを楽しく学ぶ）



参加型演習風景②